

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
389	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Drinking level, neighborhood social disorder, and mutual intimate partner violence. 飲酒量、近隣の治安とパートナーに対する暴力の関連	
執筆者	
Cunradi CB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2007 Jun;31(6):1012-9.	
キーワード	
パートナーへの暴力、飲酒、近隣の治安	
要 旨	
<p><b>背景：</b> Intimate Partner Violence (IPV, パートナーへの暴力)は依然として重大な公衆衛生学的問題である。本研究の目的は飲酒パターンと IPV の関連を明らかにすることであり、またこれらの関連が近隣の治安によって変化するかについてもあわせて検討した。</p> <p><b>方法：</b> 本研究の対象は National Household Survey on Drug Abuse (NHSDA)研究参加者のうちで非ヒスパニック系黒人、ヒスパニック、そして非ヒスパニックの白人で配偶者(あるいは同居パートナー)のいる 19035 人である。男女別に飲酒量と IPV との関連を多重調整ロジスティック回帰モデルを用いて検討した。またこれらが近隣の治安(犯罪、drug 販売、路上での喧嘩、空き家か廃棄された建物、壁の落書きの多さで規定)によって変化するかについても同時に検討した。</p> <p><b>結果：</b> 非飲酒の男性と比べて過去 30 日に多量飲酒をした男性は IPV のリスクが 6 倍以上、それよりも危険でない飲み方をしている場合では 2-3 倍であった。近隣の治安は男性の IPV リスクと独立して関連していた(オッズ比 1.61)。女性における 30 日以内の多量飲酒群を除くほとんどのカテゴリーで近隣の治安は飲酒と IPV の関連を修飾をする。すなわち飲酒と IPV の関連は一般に近隣の治安の悪いところで強くみられた。女性の多量飲酒者は近隣の治安に関わらず非飲酒者と比べ 6 倍の IPV のリスクがある。</p> <p><b>結論：</b> 飲酒量と近隣の治安状況は IPV のリスクを考える上で注意する必要がある。周辺の治安改善は IPV 発生を抑制する有効な戦略となりうる可能性がある。</p>	